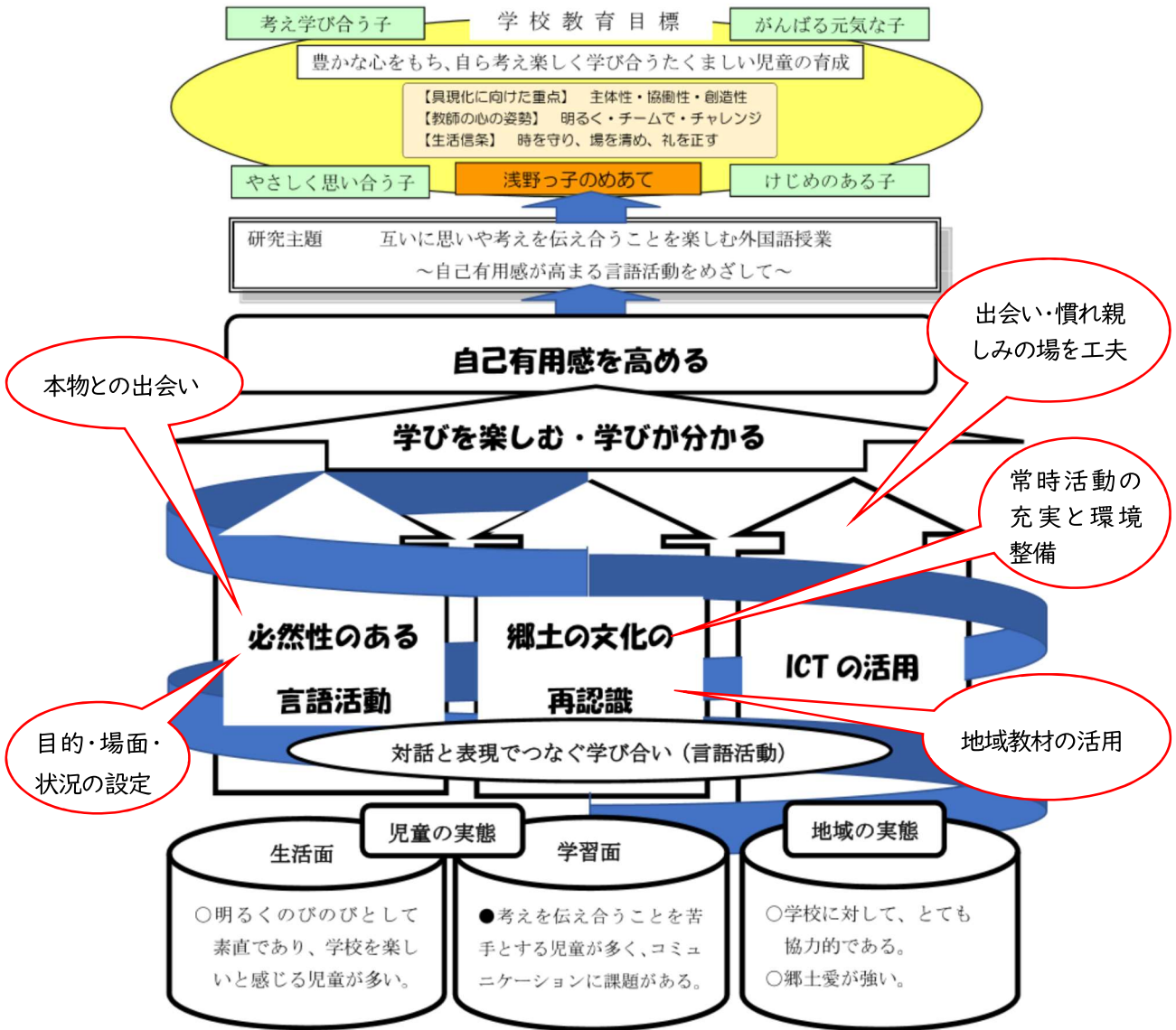


1 研究主題

**「互いに思いや考えを伝え合うことを楽しむ外国語授業」**  
 ～自己有用感が高まる言語活動をめざして～

2 研究の具体



3 研究の検証及び改善の手立て

- 学校の教育活動全体で外国語・外国語活動とのかかわりを意識し、さまざまな場面で日常的に英語を活用した活動や国際理解の場を取り入れることで、外国語・外国語活動の授業においても児童の取り組み方に変化が感じられるようになった。
- 学年に応じて、外国語・外国語活動に取り組む目的・場面・状況の設定のあり方を検討し、単元の入り口と出口で一貫して児童の主体的な取り組みが実現できるよう、教材研究に努めることで、児童が積極的に言語活動を楽しむ姿が見られるようになった。
- 評価のあり方や Can-Do リストの作成など、各学年を系統立てた取り組みが十分とは言えない。来年度の課題である。
- 仮説②「外国語を通して他者と関わることで、郷土の文化を再認識する児童になる。」の検証については、まだまだ検討・改善の段階である。来年度も継続して研究を進めていきたい。